



写真：レブンアツモリソウ

今月のトピック

- ・平成 28 年台風災害復旧状況及び
今後の災害に向けた取組について

6

平成 30 年
No. 30



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



2018年は北海道150年
Hokkaido's 150th Anniversary



平成29年度より台風災害の復旧工事として11の森林管理(支)署で541の工事を実施し、ほぼ工事を終わっています。工事位置及び8箇所について完成後の写真を掲載します。

北海道森林管理局では平成29年度より台風災害の復旧工事として11の森林管理(支)署で541の工事を実施し、ほぼ工事を終わっています。工事位置及び8箇所について完成後の写真を掲載します。

平成28年台風災害の復旧状況



平成28年台風災害復旧状況及び今後の災害に向けた取組について (治山課)



かみかわ びえい
上川郡美瑛町
保全対象 町道白金美瑛線



きたみ るべしべ
北見市留辺蘂
保全対象 国道39号



なかがわ ほんべつ
中川郡本別町
保全対象 道道本別本別停車場線



さる ひだか
沙流郡日高町
保全対象 国道274号



かみかわ しみず
上川郡清水町
保全対象 農地等

治山勉強会の実施

近年の集中豪雨等により各地で激甚な災害が多発している状況を踏まえ、大規模な災害が発生した際に被災箇所や被災状況の把握が、その後の迅速な復旧のために必要なことから、災害発生直後の現地調査における留意点や被災状況の把握手法について学ぶことを目的とした勉強会を、平成29年10月31日から3日間実施しました。



勉強会（座学）

この勉強会は、実際の被災状況の把握方法を学ぶため、各森林管理（支）署職員のほか、十勝総合振興局、日高振興局の道職員と併せ総勢54名が参加し、平成28年に激甚な災害が発生した十勝西部森林管理署管内の広尾国有林内で開催しました。

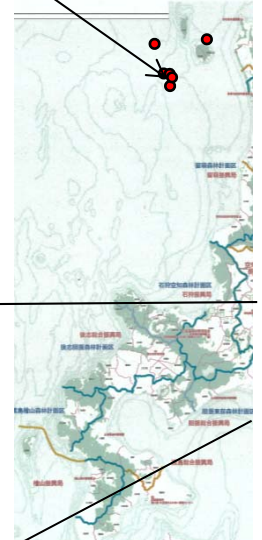
地上調査とともにドローンを活用した調査を実施し、治山担当者のスキルアップと自己啓発に繋がりました。平成30年度においては、災害申請時の緊急的な調査・設計について、職員自らが測量、設計を行い災害申請資料一式を作成可能となるよう、昨年と同様に振興局職員も招き治山勉強会を実施する予定です。



利尻郡利尻富士町
保全対象 道道沓形仙法志鴛泊線



空知郡南富良野町
保全対象 道道夕張新得線



勉強会（現場）被災状況の把握



新冠郡新冠町
保全対象 畜産施設

山地災害防止
キャンペーンについて

平成30年度山地災害防止キャンペーンは、平成30年5月20日から6月30日の期間で実施しています。

『山地災害防止標語
爪痕を見て知る
治山の大切さ』

地域課題の解決に向けた取組

地域林業の省力化・低コスト化への取組と地域への普及

網走西部森林管理署
西紋別支署



1. はじめに

網走西部森林管理署西紋別支署は滝上町にあり、オホーツク管内の5市町村（紋別市・滝上町・興部町・雄武町・西興部村）を管轄しています。

流域内の森林の多くは、自然環境や生物多様性に配慮した持続可能な森林経営を行っており、SGECによる森林認証を取得しています。また、平成29年度から「林業成長産業化地域創出モデル事業」の林業成長産業化地域に指定され、森林資源の付加価値化や人材の育成、森林認証材の販売促進に取り組んでおり、林業に力を注いでいる地域です。

2. 地域課題への取組

苗木の植付や下刈などの造林作業は大型機械で行うことが困難なため、作業の大半を人力で行っています。

しかし、夏季の炎天下、腰に負担のかかる姿勢で行うなど過酷な労働条件のため、若い林業労働者の確保が難しく、高齢化が進んでいます。



腰に負担のかかる植付作業

今後、収穫期を迎え主伐が増えることが予測される中で、森林を健全に保ち、森林資源を継続するためには、現在の造林作業の方法には課題があります。

一方、森林づくり全体のコストの中で、地拵・植付・下刈作業にかかるコストの比率が約7割とその多くを占めています。

そのため、当支署では林業における課題である労力の軽減、造林コストの縮減に取り組んでいます。

3. 低密度植栽試験を実施

当支署では平成28年春から苗木の本数を減らし、労力を軽減する施策について検証するため、低密度植栽試験地を設定し、調査を行っています。

図のように通常行われているヘクタール当り2000本植を基準（対照区）として、植栽本数を減らして苗間・列間を変えたプロットを設定しました。



低密度植栽試験地の設定区分

各プロットで、下刈作業時間を計測する「下刈工程調査」、苗木の根元径・苗高を計測する「生長量比較調査」、広葉樹資源確保のため残幅における「広葉樹発生活況調査」を実施しています。これら3種類の調査により低密度植栽のメリット・デメリットを把握し、今後の施策に役立てることであります。

4. 積極的な情報発信

当支署では今年4月に国有林のフォレストアスター活動情報誌「にしもん森林だより」を創刊しました。

国有林では先に述べたような地域課題解決に向けた取り組みや民有林との連携など様々な活動を行っていますが、その情報を地域へより積極的に発信していくため、情報誌を作成し、管内各市町村や森林組合等に配布していくこととしました。不定期発行ですが、地域の役に立てる情報を随時発信していくるように努めていきます。

こんにちは 森林官です!



網走南部森林管理署
清里森林事務所
首席森林官 和田 恭男

管内の「紹介」

清里森林事務所は、オホーツク管内の東南部に位置する清里町に所在し、川本森林事務所、青葉森林事務所との合同森林事務所となっております。合同森林事務所の管理面積は清里町内に約2万8千ヘクタールあり、当森林事務所はこの内、清里担当区と緑担当区の約1万2千ヘクタールを担当しています。

清里町は、秀峰「斜里岳」の裾野に畑作地帯が広がる、自然豊かな田園風景を有する町で、ビート、じゃがいも、小麦が主要な作物です。

また、「風景林の「神の子池」・「男鹿の滝」など、清里から豊富な水に恵まれた観光資源も有しています。



秀峰「斜里岳」と「じゃがいも焼酎」の蒸留所

町には、じゃがいもを原料にした焼酎の醸造所があり、これも観光施設の一つとなっています。

なお、緑担当区の国有林に建設された「緑ダム」からは、周辺市町村を含め、畑作地帯へ農業用水が供給されています。



農業用水を確保するために造られた「緑ダム」

森林官の業務

担当する仕事は、民有地との境界管理、森林の管理計画を樹立するための現況調査、伐採のための調査や伐採作業、造林作業の監督などがあり、エソシカやヒグマに係る簡易な調査なども行っています。

森林の管理計画を樹立するための現況調査に当たっては、事前に、調査箇所の下

調べを十分に行い、現地において造林木のほか、生育している木の本数や材積などの調査を行い、将来的な森林の取り扱いを踏まえた調査を心がけています。



次期森林管理計画のための「森林の現況調査」

伐採・造林作業については、近年、減少傾向にあり、少し寂しい感がありました。毎年の作業等を適切に実施したいと考えています。なお、植付を伴う伐採については、昨年度の実績や今年度の計画もあり、伐採のための調査も進んでおり、前述の作業が徐々に増えてくるものと考えております。

今後、伐採や造林の作業に当たり、「コンテナ苗の導入、さらなる機械化や省力化等、低コストへの取組みを推進してゆくこととなります。

担当部内には防風林もあり、農地への倒木等、問題が発生することもあります。農家の方から、「防風林があつて良かった」との話をいただいたことがあり、改めて防風林の適切な取扱いに努めて行きたいと感じたところです。

終わりに

適切な森林の管理経営のもと、伐つては植える「公益的機能の持続的な発揮」が図られるよう推進するとともに、地元・地域から、「国有林があつて良かった」といわれるように取り組んでいきたいと思ひます。



高性能林業機械による「伐採(玉切)作業」(請負事業にて)



石狩地域森林ふれあい推進センター

今回は、当センターが実施している森林教室における新たな視点での取組について紹介いたします。

この取組は、平成28年から始まり今年で3年目となります。平成33年から全面実施される次期学習指導要領の柱の一つである、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の導入に先立ち、定山溪中学校の森林環境教育において、森林の中で課題を見出し、自らがそれを解決するために必要な「能力・姿勢」を身につけることを目的に、実践しております。

定山溪中学校は、札幌市の中心部から中山峠に向かって、約30kmのところであり、水源地域にある自然環境に恵まれた学校です。これまで当センターは、様々な森林教室を中学校で実施してきましたが、その内容は、どちらかと言えば教える側が主体である受動的な学びでした。この取組に当たっては、生徒の主体性を尊重し、発

見や気づきを重視して自由な発想を妨げない、との基本方針を定め、センター職員自身もこれまでの森林づくりの基準にこだわらず、生徒へのアドバイスは必要最小限、実施プログラムは作成しない等、これまでとは異なる対応で臨んでいます。



咲いている花の数を調べよう

活動地は、中学校から約1kmのところにある国有林内にあり、この活動地を生徒たちは「ゆめの森」と名付けています。

生徒たちは、どのような森林を目指したいかを考え、自らの森林のイメージを絵にしました。それぞれのイメージを実現するために何をすれば良いかを話し合った結

果、平成28年には、まずは歩道が必要と気づき、歩道の作設・測量・図化を行いました。平成29年には、この森の看板を設置し、「鳥たちと楽しく遊べる森」をイメージして巣箱やバードテーブルを設置したり、「キノコの分解者ゾーン」を設けたり、昆虫の調査を実施して森林環境のモニタリングもおこないました。これらの活動により、生徒は、自らが体験で学び、自らが判断し、仲間と協働で活動することができました。



定山溪中学校の「ゆめの森」看板

また、森林整備活動を行っているNPO団体等との意見交換・交流を行うことにより、お互いの活動の活性化を推進するために「森づくり活動発表会」を開催しました。発表後は、

全参加者で「もりを観察、学ぶ、育てる」をテーマにパネルディスカッションを行い、有意義な時間を過ごしました。



森林教室を終えて記念撮影

更に、森林学習で学んだ成果については、積極的に発信・発表を行ってきており、継続的に取り組んでいる環境教育活動は、地域住民の環境の保全に向けた意識の高揚、地域の森林づくり活動を担う人材育成に大きく貢献していると、「平成30年度緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。当センターもしっかりとサポートしていくこととさせていただきます。

みんなで森林づくり

詳細は

森もりスクエア

検索

防風保安林を活用した長沼町町民植樹祭

平成30年5月26日(土曜日)長沼町内の国有林において今回で32回目となる町民植樹祭が開催されました。今回の植樹祭は、長沼町本町北3丁目4番地という町中心部の住宅街にある国有防風保安林で行われました。そのため、ご近所の方が徒歩や自転車でお越し下さり、小さなお子さんも含め65人の町民の皆様に参加いただきました。

(空知森林管理署)

「コープ未来(あした)の森づくり」植樹祭

平成30年5月26日(土曜日)、晴天の中、今回で8回目となる生活協同組合コープさっぽろとむかわ町主体の植樹祭がむかわ町有林で行われました。参加者は、約70名。親子連れの参加者が多く、植樹終了後には参加者の代表として児童がお礼の挨拶を行い、とてもほほえましい姿を見ることができました。

(胆振東部森林管理署)



陸別町町民植樹祭

平成30年5月27日(日曜日)に陸別町・陸別町森林組合・東北北海道木材協会陸別支部・当署の共催による陸別町町民植樹祭が開催されました。今年には陸別町開町100年記念植樹でもあり、当署からも7名参加し約100名がミズナラの苗木1000本を植樹しました。



(十勝東部森林管理署)



「第51回下川町植樹祭」

平成30年5月18日(金曜日)、下川町溪和(けいわ)町有林において、下川町と上川北部森林管理署の共催による「第51回下川町植樹祭」が開催されました。下川町内の一般の方や幼児センターの園児、小中学生など総勢180名が参加しました。下川町の「一の橋地域おこし協力隊」が育成したカラマツコンテナ苗1,300本を植樹しました。

当署職員は、小中学生を対象に植樹指導をしながら一緒に汗を流しました。

(上川北部森林管理署)

第23回オホーツク魚の市民植樹祭

平成30年5月20日(日曜日)、紋別市大山パークゴルフ場跡地において紋別市、紋別漁業協同組合が主催で「第23回オホーツク魚の市民植樹祭」が開催されました。会場には続々と参加者が集まり、歴代最多の約420人の市民が、エゾマツの苗木など300本を植えました。

この植樹祭は山(自然)が健康であると、それを源流とする川もその川が流れ着く海も健康であるということから、この山の植樹地には大漁旗が掲げられます。

(西紋別支署)

国民の森林づくり感謝状

林野庁では、毎年度、国有林において、森林づくりや森林環境保護、国産材利用の推進など「国民の森林づくり」の推進に貢献いただいている方々や市民団体等に対して、林野庁長官より「国民の森林づくり推進功労者に対する感謝状」を、また、北海道森林管理局長より「国民の森林づくり感謝状」を、北海道国有林において積極的に取り組まれ功績のあった方々に贈呈しております。

5月13日(日曜日)、北海道庁赤れんが庁舎において、「北海道・木育フェスタ2018」開会式が行われ、式に併せて新島北海道森林管理局長より感謝状の贈呈が行われました。

当日は、利尻漁業協同組合 鬼脇支所女性部、幌加内町立



新島局長と感謝状を贈呈された皆さま
左から幌加内町立朱鞠内小学校、利尻漁業協同組合鬼脇支所女性部、局長、リコージャパン株式会社北海道支社

朱鞠内小学校及びリコージャパン株式会社北海道支社の3団体に感謝状の贈呈を行いました。
新島局長からは、「永年にわたり、それぞれの団体が多様な活動にご尽力頂いていることに心より感謝いたします。」と労いの言葉がありました。
今回、感謝状を受けられました各団体の益々のご活躍をお祈りいたします。

各地からの便り

「小清水原生花園で植生回復(火入れ)を実施」

小清水原生花園は次の世代に引継ぎたい北海道の宝物として平成16年に「北海道遺産」に指定されました。この景観を維持するために毎年関係者が連携して火入れを行っています。
今年も、5月10日の午前4時30分から総勢約110名で火入れ作業を開始し、およそ3時間で15ヘクタールの火入れ作業を無事完了しました。
6月から始まる花の絨毯を是非お楽しみ下さい。
(網走南部森林管理署)



火入れが進む様子

詳細は

森もりスクエア



「林木育種技術講習会(カラマツ採種園の再造成)」

平成30年5月16日(水曜日)から17日(木曜日)にかけて、勝山カラマツ採種園(置戸町)で森林総合研究所林木育種センター北海道育種場主催の「林木育種技術講習会」が行われました。この採種園の整備などについては、カラマツ種子を安定的に生産することを目的として、平成26年に北海道育種場と網走中部森林管理署との間で「勝山採種園の取り扱い(カラマツ)に関する覚書」を締結しております。特にカラマツについては、苗木の需要が増大しており、安定供給への取組の一環として実施されたものです。
(網走中部森林管理署)



勝山カラマツ採取園

行事・イベント情報

7月7日(土曜日)
国有林モニター会議
(北海道森林管理局大会議室)

7月20日(金曜日)
17時~20時30分
「カルチャーナイト2018」
(北海道森林管理局)
木工教室等を予定しています。



もり
広報 「北の森林 国有林」6月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194